

分荷造りたるも、是迄の通り可被心得候、

右之通、万石以上以下の面々へ可被達候事、

〔徳川禁令考^{三十五}關所并渡船場〕慶應三卯年七月二十日、關所通シ方改正ニ付御書付、

美濃守殿御渡

大目付^江

關所通し方之儀、前々より御規定之趣も有之候處、今度御變革被仰出候、來ル八月朔日より別紙之通ニ可相心得候、尤是迄御留守居ニ^而取扱候廉も、以來都^而關所懸リ御目付取扱候筈ニ候、

七月

條々

一 婦人通し方之儀、別段之改無之、總^而男子同様之振合を以相通シ、小女も振袖留袖勝手たるべき事、

一 剃髮、總髮、かぶろ等、總^而別段之改無之候事、

一 首、死骸亂心手負囚人等手形無之候、共差添之者より證書差出通行可致事、

一 諸役人急御用之節、上下共夜中も通行不苦候事、

一 鐵炮武器ハ御品ニ差添之者より、證書差出通行可致事、

一 是迄印鑑引合通行之分、以來其儀ニ不及候事、

右之通可相心得候、以上、

〔代官例要^四心得方〕一 今切御關所通行心得之事

御關所通行之節、前日泊り又ハ前宿杯^江本陣宿役人共罷出、御關所通行方案内可致旨申立候儀有之、既ニ拙者通行之砌^茂前夜罷出、案内之義申込候ニ付、御用ニ付御關所通行いたし候、迎、本陣